

駒ヶ根高原の七名石

日本唯一、氷河によって運ばれた巨石が点在

駒ヶ根高原には、切石公園を中心に「切石」「重ね石」「地藏石」「袋石」「ごぎ石」「蛇石」「小袋石」という七つの巨石（七名石）が点在する。氷河の力と、洪水の力によって、駒ヶ岳の千畳敷から運ばれてきた石である。太田切川扇状地を造る巨石は、約10万年前以降、中田切川まで広がっている。当時の太田切川扇状地の広がりは大であった。七名石のひとつ、切石の直下には活断層があり、地盤の山側が高くなっている。地盤の動きで直上の巨石が割れたものと考えられている。



七名石の一つ、切石。刃物で切ったように真っ二つに割れているのが特徴



七名石の一つ、重ね石「蚕玉石(こだまいし)」、「癩瘡石(ほうそういし)」とも呼ばれている

information

□ アクセス

駒ヶ根ICから1.5km
車→5分

□ 所在地

駒ヶ根市赤穂



七名石は、約2万年前に氷期の氷河により千畳敷カールからしらび平まで運び出され、後の山つなみによって駒ヶ根高原へ運び出されたものと考えられている。こうした石を迷い子石といい、ヨーロッパではよく見られる。

切石公園の中心には夫婦池という二つの池がある。池ができる前は牧場であった。柵をめぐらすため植えたカラマツが南側に見事な並木として残っている。



(国土地理院の数値地図25000(地図画像)を使用)